

新刊書

発行日 令和5年5月15日



青林書院

データ利活用と プライバシー・ 個人情報保護〔第2版〕

— 最新の実務問題に対する解決事例108 —



渡邊 涼介 [著]

A5判／334頁／（本体価格 4,500円）＋税

さらに充実，待望の第2版！

- データの「利活用」とプライバシー・個人情報の「保護」を調和させる観点から，実務のポイントと具体的取組を詳説
 - 完全施行された令和2年・3年の改正個人情報保護法の実務を反映
 - 外部送信規律，Cookie，IoT，AI，カメラ画像，位置情報，ヘルスケアデータ，プライバシーガバナンス等，企業が対応を迫られる最新課題を網羅
- 令和4年電気通信事業法改正に対応！

執筆者：渡邊 涼介弁護士（光和総合法律事務所）

●本書の構成

- 第1章 概 説
- 第2章 基本となる考え方
- 第3章 データの取扱主体に応じた利活用
- 第4章 データの種類に応じた利活用
- 第5章 データの取扱態様に応じた利活用

はしがきから抜粋

2020年5月に初版を上梓してから3年が経過した。後世の歴史教科書では，この間の出来事として，新型コロナウイルス感染症による社会生活への影響が大きく取り扱われるであろう。日本の企業では，この3年間にデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が提唱され，さらにテレワークも普及し，デジタルデータの取扱いの重要性が増してきた。さらに，ChatGPTやMidjourney等の公開により，AI技術が身近なものとなってきた。

日本における立法では，令和2年・3年改正個人情報保護法について，ガイドライン等が整備されて完全施行され，実務での対応も固まってきた。筆者が総務省で関わっていた電気通信事業分野のプライバシー保護に関して，令和4年電気通信事業法改正も施行される。さらに，令和7年個人情報保護法改正に関する検討も，2023年から本格化していくと考えられる。

グローバルな観点からは，中国や東南アジア諸国を始めとする各国で，プライバシー保護法制の立法が進められてきた。もっとも，一部の国家間における分断が深まり，経済安全保障の観点が重視されるようになってきた。

本書では，上記の大きな流れを踏まえううえで，企業における，データ利活用とプライバシー・個人情報保護の実務に関する最新の内容を盛り込んだ。改訂にあたり，執筆の方針は初版のままであるが，令和2年改正，令和3年改正に関する実務の反映や，最新実務に照らした項目の最新化，各論部分の構成を主体・データの種類・取扱態様に分類したことなどにより，初版に比べて4割程度の内容を変更している。なお，改訂にあたっては，一読して全体をコンパクトに見渡せることを重視して，初版と同様に108項目とし，全体の分量も増えないように心掛けた。

令和5年4月
渡邊 涼介